

冬季における転倒災害の特徴

特徴 1

事故の4割が60歳以上

冬季転倒災害の約4割は60歳代以上が被災者です。50歳代以上では全体の約7割にもなります。高齢労働者は筋力や体力の衰えによって被災しやすいことに加え、休業が長期化しやすい傾向にもあるため、徹底した対策が必要です。

特徴 2

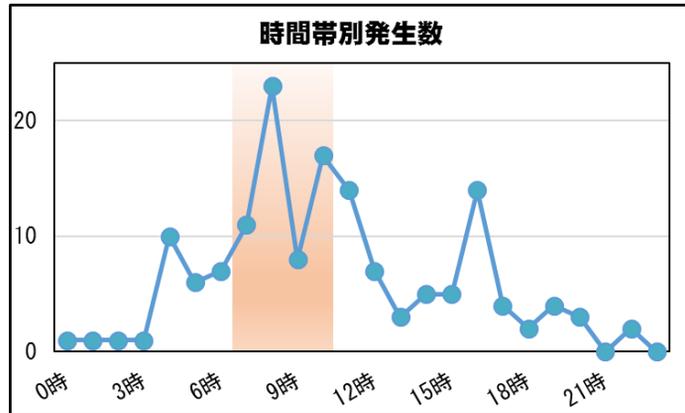
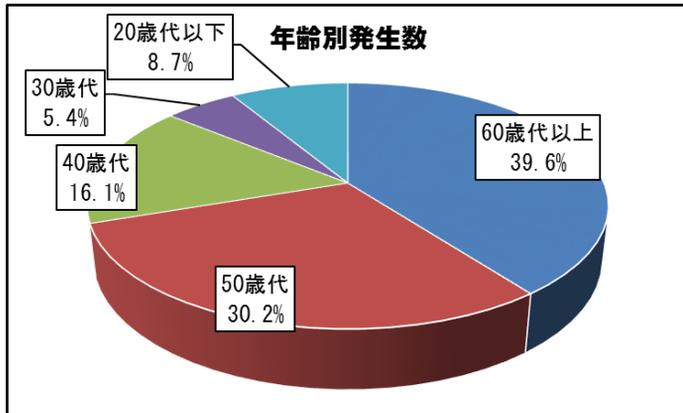
朝の通勤時間帯に特に多い

通勤時間帯は、夜のうちにできた凍結面等が日光で少し溶けていることがあり、より滑りやすくなっています。また、日中の仕事をされている方の場合、体が完全に覚醒していない時間帯でもあるため、特に注意が必要です。

特徴 3

事故の約8割が事業場の敷地内

事業場の中では、特に建物内や駐車場での割合が高くなっています。建物内では、外から持ち込まれた雪や水分で転倒しているケースが多く、駐車場では、降車時に足下の確認が疎かになる、照明がなく暗い、急いでいる状況等の特徴が見られる事故が多くなっています。事業場においては、これらの特徴を踏まえた対策が必要です。



場所別発生数

